

山梨県における外来淡水産プラナリアの生息調査 (平成 28 年度)

堀内 雅人

Survey of Exotic Freshwater Planarian in Yamanashi Prefecture, Japan (April 2016 - March 2017)

Masato HORIUCHI

キーワード: 外来種、プラナリア、ウズムシ

近年、県内河川では外来淡水産プラナリアのアメリカツノウズムシとアメリカナミウズムシの生息が確認されている¹⁾。ここでは、既報¹⁾でアメリカツノウズムシとナミウズムシ(在来種)の混在生息を確認した桂川(桂川公園横)の生息地点におけるプラナリアのモニタリング調査の結果を報告する。

調査方法

調査は平成 28 年 5 月 23 日、8 月 8 日、11 月 21 日および平成 29 年 1 月 31 日に行った。プラナリアは河川左岸の水深 20~30cm 程度の川底にある大きさ 15cm 程度の礫 10 個から採取した。採取したプラナリアは、現地で拡大鏡(倍率: 10 倍)により耳葉等の外部形態観察により在来種と外来種を区別し、外来種と見られる個体は試験室に持ち帰り咽頭部の色素を確認し、外部形態と併せて仮同定を行った²⁾。調査時には調査地点の水温、流速、電気伝導度および pH を測定した。

結果と考察

調査結果を表 1 に、調査地点の近影を図 1 にそれぞれ示した。今回の調査では、外来種のアメリカツノウズムシの生息数は在来種のナミウズムシと比較して少なかった。調査地点は、年 4 回の調査時においていずれも水温 10~15°C の範囲であった。また、川底は礫が豊富でトビケラ、カゲロウ等の水生昆虫も多数生息しており、ナミウズムシにとっては良好な生息環境と考えられる。現在の河川環境が維持されていれば、この地点でアメリカツノウズムシがナミウズムシを生息数で圧倒するような変化が起こる可能性は低いと考えられる。ただし、今後水質等の河川環境が悪化することがあれば、在来種のナミウズムシが減少し、汚濁に強い外来種のアメリカツノウズムシ等が大きく勢力を伸ばす可能性がある。在来種の保護と外来種の生息拡大防止のためにも、水質、川底の状況等の河川環境の保全は重要であると考えられる。今後

もこの地点のモニタリング調査を継続する予定である。

まとめ

桂川のアメリカツノウズムシ生息地点において、1 年間に 4 回、プラナリアの生息数の調査を行った。現状ではアメリカツノウズムシの生息数は、在来種のナミウズムシと比較して少ない状況であった。

文献

- 堀内雅人: 山梨県における淡水産外来プラナリアの生息調査(平成 27 年度), 山梨衛環研年報, **59**, 83-84(2015)
- 川勝正治ら: プラナリア類の外来種, 陸水学雑誌, **68**, 461-469 (2007)

表 1 調査結果

調査年月日	2016/5/23	2016/8/8	2016/11/21	2017/1/31
水温(°C)	13.6	14.2	12.8	12
流速(cm/s)	20	25	20	20
EC(mS/m)	14	14	15	14
pH	7.6	7.3	8.1	7.6
アメリカツノウズムシ	2	1	0	2
ナミウズムシ	106	113	91	76



図 1 桂川調査地点(西桂町)